

みなお通信

高崎市議会議員 高橋美奈雄

<市政相談連絡先>

〒370-0041

高崎市東貝沢町2丁目32-6

TEL&FAX 027-363-2733

E-mail: minao.t@jcom.home.ne.jp

3月市議会定例会報告

平成26年第1回市議会定例会は、2月24日から3月19日までの24日間の会期で開かれました。本定例会では、平成26年度高崎市一般会計予算、9特別会計、上・下水道事業会計の各予算、新市建設計画の延長について、高崎市いじめ問題調査委員会条例の制定についてなどの議案の審議を行い、いずれも原案のとおり可決しました。なお、大雪被害に関する支援のため約7億円を25年度補正予算として3月4日に議決しました。

3月定例会は新年度予算を決定する重要な議会で、市長の施政方針や財務部長の提案説明を受けた後、各会派の代表が総括質疑を行い、市長が答弁しました。また、各分野の事業内容については、4つの常任委員会と都市集客施設調査特別委員会において詳細に審議が行われました。

《平成26年度予算関係》

一般会計予算は、前年度比1.8%増の1,552億円で、このうち消費税増税による影響は、約18億2千万円、1.2%です。特別会計、企業会計を合算した総予算額は、2,534億9,938万円となりました。

本市の大型プロジェクトである新体育館や新斎場建設の本体工事がスタートする中で、「徹底した事業費の削減」、「重点事業の積極的な推進」、「人件費の圧縮」の3つを基本方針の柱とし、『新しい高崎』の理念と基本政策の実現に向けた施策を展開するため、重点事業等に56項目を選定し、選ばれる都市としてさらに成長・発展していく積極的なまちづくりを進めるための予算編成に取り組んだといえるでしょう。

主な主要（新規）事業

- ★ 小児救急医療体制整備補助金（保健医療部） 40,000千円
- ★ 中学校空調整備事業（教育部） 380,000千円
- ★ 空き家緊急総合対策助成金（建設部） 100,200千円
- ★ スマートIC周辺整備事業（都市整備部） 330,711千円
- ★ 省エネルギー型街路灯整備事業補助金（商工観光部） 224,000千円



三月定例会

市政に対する総括質疑

平成二十六年度予算や市長の施政方針などに対し、各党派の代表者による総括質疑が行われました。高橋みなお議員は、「たかさき市民21」を代表して登壇しました。以下、概要を報告します。

「新しい高崎」の基本政策と
平成二十六年度予算について
七つの政策分野から

質問 市長就任以来「新しい高崎」の理念と基本政策に向けた施策が展開され、新しいビジネスや雇用の創出、都心部の活性化に取り組みられてきたと認識している。今後、大規模プロジェクトが予定され、将来を見通した財政運営が必要であるが、どのような特徴と市長の考えが組み込まれた予算編成なのか。

答弁 すべての事業内容を精査し、市民生活の安心・安全、産業振興や福祉関連、賑わいの創出などに重点的に配分した予算となっている。

質問 国では教育委員会制度の見直しが議論となっているが、本市の考えを伺いたい。また、新年度にスタートする学力アップ推進事業の整備状況は。

答弁 本市の教育委員会については、現在の制度で役割を果たしていると認識している。学力アップ推進事業は、最終調整を行いすべての校区で精力的に展開していきたい。

質問 中小企業支援やビジネス誘致など、様々な施策や助成を行っているが、実績や効果の検証も必要である。企業ニーズや必要性の見解を。また、高崎玉村スマートIC開通による地域活性化が期待される中で、卸売市場についての考えは。

答弁 様々な奨励金制度や商店リニューアル助成事業などはビジネスの活性化に大きな成果を得ており、継続して予算措置を盛り込んでいる。卸売市場は、県内全域、県外にわたり役割が強化されるよう取り組みを進めたい。

質問 音楽でのまちづくりを推進するため、音楽創造活動の拠点として高崎駅西口に開設するサウンド創造スタジオの整備についてどのように考えているのか。

答弁 プロ仕様のレコーディングスタジオ整備を進め、全国から音楽を志す若者が本市に集うようなものを目指している。

質問 特別老人ホームの待機者、保育園の待機児童、買い物難民などをゼロにする「ゼロ政策」の進捗状況は。また、生産年齢人口増加は税収の確保にもつながると考えるが、転入してくる世代に対しての施策展開は。

答弁 特別養護老人ホームの整備、あんしん見守りシステム、買い物代行事業などを引き続き実施していく。人口増加については、都市としての魅力を高めていくことが重要と考えている。

質問 最初の合併から8年が経過し、新市建設計画や地域懇談会等を基に各地域での成果を検証していると考えますが、今後どのように特性を活かしていくのか。

答弁 「くらぶち小栗の里」のオープン、榛名のスポーツイベントなど個性を活かした事業を推進していきたい。

質問 災害時の自助・共助・公助の必要性を改めて認識しているが、東日本大震災を風化させないような復興支援に向けた継続的な取り組みは。

答弁 地域防災力の強化が図られるよう支援を進めたい。被災地復興のため、今後も職員を派遣し継続的な取り組みに努める。

質問 「大勢の人が歩き、賑わう街」から生まれる都市ブランド力について、重点事業が集中し予算規模も大きなものとなっているが、市長の決意を伺いたい。

答弁 大規模施設工事に着手するが、内容を精査し有利な地方債を活用するなど工夫をし、計画的な財政運営を進め、将来への負担が少なくなるよう対応する。本市が元気になるために必要な予算と考えている。